1. 学校で取り組む必要性

1）LGBTQ とは？

■ 多様な性とは

私たち一人ひとりの性のあり方のことを「セクシュアリティ」といいます。セクシュアリティは主にこの 4 つの要素から成り立ちます。

法律上の性	戸籍など、法律上で割りあてられた性別。日本では、男・女の 2 通り
性的指向 (Sexual Orientation)	どの性別を恋愛の対象とするか / しないか
性自認 (Gender Identity)	自分の性別をどのように捉えているか
性表現 (Gender Expression)	どのような服装、振る舞い、言葉遣いなどをするか

■ SOGI とは

人それぞれの、性的指向と性自認お組み合わせのことを「SOGI（ソジ）」といいます。性表現を加えて「SOGIE（ソジー）」、身体の性的特徴（Sex Characteristics）を加えて「SOGIESC（ソジエスク）」ということもあります。誰もがもつセクシュアリティの多様性を尊重する言葉として国際的にも使用されています。

■ 様々なセクシュアリティ

シスジェンダーかつヘテロセクシュアルの人は「セクシュアルマジョリティ」にあたります。そうではない人は「セクシュアルマイノリティ」にあたります。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングのの頭文字をとって「LGBTQ」ということもあります。LGBTQ の人たちは約 3 ～ 10% いるといわれています。[*1]

*1「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム（2019）「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」では LGB が 2.7%、T が 0.7%、「アセクシュアル」「決めたくない・決めていない」を含めると 8.2%。日本労働組合総連合会（2016）「LGBT に関する職場の意識調査」では LGBT 等（性的マイノリティ）当事者が 8.0%。株式会社 LGBT 総合研究所（2016）「LGBT に関する意識調査」では LGBT が 5.9%、LGBT を含めたセクシャルマイノリティが 8.0%。電通ダイバーシティ・ラボ（2018）「LGBT 調査 2018」では LGBT を含む性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）が 8.9%。日高庸晴・三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」（2018）「多様な性と生活についてのアンケート調査」では LGBTQ が 10.0%。岩手県高校教育研究会学校保健部会・いわて思春期研究会（2013）「高校生の生と性に関する調査」ではセクシュアルマイノリティが 10.1%。

©ReBit 2025 All Rights Reserved

■ シスジェンダー
性自認と、出生時に割り当てられた性別が一致する人。

■ トランスジェンダー
性自認と、出生時に割り当てられた性別が異なる人。

■ X ジェンダー
トランスジェンダーのうち、性自認が男女どちらかではないなどという人。

■ ヘテロセクシュアル
性自認が女性で、男性を好きになる人。性自認が男性で、女性を好きになる人。

■ レズビアン
性自認が女性で、女性を好きになる人。

■ ゲイ
性自認が男性で、男性を好きになる人。

■ バイセクシュアル
性自認に関わらず、女性も男性も好きになる人。

■ パンセクシュアル
性自認に関わらず、好きになる相手の性別を問わない人。

■ アロマンティック / アセクシュアル
性自認に関わらず、他者に恋愛感情 / 性愛感情を抱かない人。

■ クエスチョニング
性のあり方を決めない人、決めたくない人。

©ReBit 2025 All Rights Reserved

2）LGBTQ の児童・生徒や、学校の状況

■ LGBTQ の児童生徒は、学校・家庭での困難が多く、不登校や自死につながっています

LGBTQ の子どもや若者は、学校や家庭で多くの困難に直面し、その結果、不登校や自死につながることも少なくありません。調査によると、LGBTQ の 68%[*1] が小学校から高校の間にいじめを経験し、さらに、過去 1 年間で LGBTQ の学生の 70% が学校でセクシュアリティに由来する困難やハラスメントを経験したといいます。

また、LGBTQ の子どもや若者の 89% が保護者との関係の中でセクシュアリティに由来した困難を経験。現状、学校も家も安心できる環境でない場合が多いです。一方で、LGBTQ の子どもや若者の 93% が教職員に対して、91% が保護者に対して、自身のセクシュアリティについて安心して話せないと感じていて、身近に相談できる大人がいない状況に置かれています。

こうした環境は、高い不登校率や希死念慮の高さにもつながっています。不登校を経験した LGBTQ の中学生は 22%(全国調査比 5.4 倍) にのぼります。また、過去 1 年間で、10 代の LGBTQ の約 2 人に 1 人が希死念慮を抱え、14% が自殺未遂をしています。この深刻な状況に対し、教職員や保護者の理解を促進し、安心できる環境を整えることが急務となっています [*2]。

LGBTQ の子ども若者たちの声

毎日服を脱がされるいじめを受けていたが誰も助けてくれなかった。体育の授業で着替えをしなかったので教員に無理やり脱がされた。（20 代・出生時に割り当てられた性は答えたくない、性自認は女性、パンセクシュアル）

10 代のときに先生たちに理解がなく、「思春期の一時的な気の迷い」とか「あんたはおかしい」とか言われて辛かった。最終的に不登校になって自傷行為もしていた。（20 代・トランスジェンダー男性、パンセクシュアル・岡山県）

*1 いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン（2014）平成 25 年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業「LGBT の学校生活に関する実態調査（2013）」*2 認定 NPO 法人 ReBit（2022）「LGBTQ 子ども・若者調査 2022」

©ReBit 2025 All Rights Reserved

自認する性で生きられないことが死にたくなるくらい辛いことだと分かってほしい。何気ない言葉に沢山傷ついてるのを知ってほしい、気づいてほしい。（10 代・FtX、パンセクシュアル・埼玉県）

親に「お前そっちじゃないよな」など探りを入れられる度に「そんなわけない」と嘘をついて笑うことが辛かった。家の中でさえ、自分が自分でいられないことが辛かった。（10 代・MtX、性的指向は男性・富山県）

■ 全ての子どもにとって、多様な性に関する教育は大切です

LGBTQ の児童生徒に限らず、多くの児童生徒が日常の中で性の多様性を尊重しない言動を見聞きしています。調査によると、小学生の 63%、中学生の 78% が、そのような言動を見聞きしたと回答しています。一方で、「今回の授業まで LGBTQ や性的マイノリティという言葉を知らなかった」と答えた児童生徒は、小学生で 63%、中学生で 42% にのぼりました。このことから、子どもたちは性の多様性を尊重しない言動には日常的に触れているものの、正しい知識を学ぶ機会が限られている現状が明らかになっています。学校で性の多様性について学ぶことは、LGBTQ への差別や偏見を減らし、自己受容や他者理解を促進する上でも重要であると考えられます。

また、小学生の 4.4%、中学生の 8.8%、高校生の 10.9% が、友人や周囲の人から LGBTQ であることをカミングアウトされたり、性のあり方について相談を受けた経験があると回答しています。これをクラスの平均人数（小学校 27 人、中学校 32 人）に当てはめると、小学生では 1 クラスに 1 人以上、中学生では 1 クラスに約 3 人が、こうした経験をしていると推測されます [*3]。

このことからも、LGBTQ の子どもたちへの対応だけでは十分ではなく、すべての子どもたちが性の多様性について学べる機会と、子どもたちが安心して相談できる場所や大人の存在が不可欠であると言えます。

*3 認定 NPO 法人 ReBit（2023）「学校における性的指向・性自認に係る取り組み及び対応状況調査」

©ReBit 2025 All Rights Reserved

授業後の子どもたちの声

今までオカマやオネエなどの言葉を家族からきいたりYouTube を見たうえで声に出していっていた。悪口だと知って、気をつけようと思いました。（小学生）

私は家族からカミングアウトをされたことがあります。その時は、優しく声をかけることができませんでした。授業でたくさんの事を学び、すくわれました。（中学生）

TikTok で LGBTQ のことが出てきて「へんだな〜」みたいに軽く思ってたけど、それは間違いで、今は「みんなちがってあたりまえ」みたいに思う。これからいろんな人にあうと思うから「みんなちがってあたりまえ」を意識して生活していきたい。（小学生）

女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしくしないとだめなのかな？と思っていました。しかし、この授業を受けて、女らしく、男らしくではなく「自分らしく」でいいんだと思い、とても気が楽になりました。その人らしさを大事にしていきたいです。（中学生）

研修後の先生たちの声

「もっと女らしくしたほうがいい」と他の教員が児童に対して言っていたのですが、私は何も言えませんでした。子どもたちが安心して学校生活を送るために、教職員の知識が不可欠です。それにより、日常的な声かけも変わると思います。（小学校教員）

過去に生徒からカミングアウトされた際、保護者や他の教員に共有していいものだと思い、勝手に共有してしまった。今後は気をつけたい。（中学校教員）

©ReBit 2025 All Rights Reserved

3）行政などの、学校に関する取り組み

学校で、LGBTQ に関して教育・啓発、教育環境の整備、相談機会の確保行う重要性を定めた様々な法律・指針等があります。また、自治体・教育委員会、教科書会社の取り組みも進んでいます。

国の取り組み

- 2015 年に文部科学省は、全国の小中高校及び特別支援学校に、性的マイノリティの子どもへの対応配慮を求める通達を出し、2016 年には教職員向け周知資料を公開しました。
- 2017 年に文部科学省は、「いじめ防止対策推進法」に基づく「いじめの防止等のための基本的な方針」を改定し、「いじめを防止するため、性同一性障害や性的指向・性自認について、教職員への正しい理解の促進や、学校として必要な対応について周知する」ことが記載されました。
- 2022 年に文部科学省は、改訂版「生徒指導提要」に「性的マイノリティに関する課題と対応」という項目を設け、性的マイノリティとされる児童生徒が相談しやすい環境と支援体制構築の必要性が記載されました
- 2023 年に「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律（通称：LGBT 理解増進法）」が制定され、学校の設置者及び学校に対して LGBTQ に関する教育・啓発の推進、教育環境の整備、相談機会の確保が努力義務として定められました。

（参考）文部科学省「性的マイノリティに関する施策」サイト
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/sankosiryo/1415166_00004.html

教科書への掲載

2018 年度から高校教、2019 年度から中学校、2020 年度からは小学校の教科書の一部に、LGBTQ や多様な性についての記載が始まりました。さらに、2024 年度からは小学校の全社の保健体育教科書に、2025 年度からは中学校の全社の道徳教科書に LGBTQ や多様な性に関する内容が記載されます。

制服に関する取り組み

性別に関係なく制服を選べる学校や教育委員会が増えています。この取り組みは、トランスジェンダーの生徒への配慮にとどまらず、寒さ対策や動きやすさの観点からスラックスを選びたい女子生徒など、より多くの生徒にとって選択肢を広げる重要な施策となっています。

©ReBit 2025 All Rights Reserved

2. LGBTQ/SOGIE を包摂した学校・学級づくりの実践

1）声かけのなかでのジェンダーバイアス（性別規範の決めつけ）

先生からの声かけ等に、無意識であってもジェンダーバイアスが含まれていることがあります。そのことは、全ての児童生徒にとって性別役割の押し付けにつながります。また、トランスジェンダーの児童生徒にとっては望まない性別で扱われることにつながります。先生自身が、自分が無意識でもっているバイアス（アンコンシャス・バイアス）を点検し、性別役割を決めつけている場面がないか考えてみましょう。

LGBTQ の子ども若者たちの声

先生が私のことを「〇〇ちゃん」と呼ぶのが嫌ですが、カミングアウトをまだしていないから嫌だと伝えたらどう思われるかわからなくて怖い。とにかく私の学校の先生は人のことを「くん」「ちゃん」で呼ぶから、それをまずなくしてほしい、不必要だと思う。（ノンバイナリー、性的指向は男性・10 代・東京都）

どんなに親身になってくれる先生でも、「女の子だから」「男だから」といったジェンダーロールを押し付けてくることがある。抱いていた好意や尊敬の念がスっと冷える感覚になる。（出生時に割り当てられた性別は女性、クエスチョニング、性的指向は男性・20 代・大阪府）

小学 4 年生の頃、女子なのに一人称が「ぼく」であったことを注意された。それ以来、誤魔化して生きていた。あの時の先生がいなければ、もっと早くに生きやすくなっていたと思う。（トランスジェンダー男性、性的指向は決めていない・20 代・広島県）

女子は家庭科、男子は技術科で分けられ、ジェンダーロールが押し付けられて、嫌だった。（FtX、性的指向は決めていない / わからない 20 代・群馬県）

力仕事などで「男子手伝って」といった声かけをされることが辛い。（FtX、アロマンティック / アセクシュアル・20 代・広島県 ）

©ReBit 2025 All Rights Reserved

先生たちの実践

力仕事は「男の子」ではなく、「力持ちの人」に頼むようにして、高い場所の仕事は、「背の高い人」に頼むようにしています。（東京都・高校）

「ぼく」「わたし」などの一人称は、大人になったらみんな「わたし」と使うから、男の子でも使ってもいいんだよと説明しました。（大阪府・小学校）

呼称は「さん」で統一しました。お父さんお母さんではなく、「保護者・お家の人」としています。（静岡県・小学校）

「男子から」「女子だけ」のように、性別でクラスを分ける呼び方をしないようにしています。（東京都・小学校）

男子校に勤務していた際に、「男なんだから」などの男性ジェンダーに関するステレオタイプな話を生徒や同僚がしていたら、止めるように心がけていました。（東京都・高校）

ちがいやそれぞれの好みが表現しやすいように、身近な例（ピンク色がすきなのは性別には関係ないことなど）を挙げて語るようにしています。（大阪府・小学校）

名前を何と呼ばれたいか、本人に確認して呼んでいます。（千葉県・小学校）

今日からできること

- ☑ 児童生徒を呼ぶときに、全員を「さん」で統一するか、本人に呼ばれたい名前を聞く（くん・ちゃん・さん等の指定も含む）。
- ☑ お父さん・お母さんではなく「保護者の方・ご家族」、お兄ちゃん・お姉ちゃんではなく「ごきょうだい・ご家族」等の包摂的な呼称を選ぶ。
- ☑「男子〜」「女子〜」等、性別でわけない声かけを工夫する。（例：力持ちの人手伝って等）

©ReBit 2025 All Rights Reserved

2）名簿・席順・持ち物などの、不要な性別わけ

学校のなかでは男女でわかれているものが多くありますが、そのなかには男女でわけなくてもいいものもあります。トランスジェンダーの児童生徒にとっては性別でわけられる度に望まない性別で扱われることにつながりかねません。また、全ての児童生徒にとって、不要な男女わけは本人の選択肢を狭めることにも繋がりかねません。どの性別わけがいるか・いらないか、性別以外のわけ方ができるか、考えてみましょう。

LGBTQ の子ども若者たちの声

小学校に入ってすぐ、先生が面談で親に「今彼女の持ち物はすべて男児用なので、なるべくこれらを使わないようにしてください」と注意をしていた。（FtX、性的指向は女性・20 代・千葉県）

学校のオンラインアンケート等で、男性か女性しか選べなかった。（MtX、性的指向は決めていない・20 代・大阪府）

性別によって席の場所を限定されることが辛かった。（FtX、アロマンティック / アセクシュアル・10 代・福井県）

出席番号を男女で分けて決められることが辛かった（トランスジェンダー男性、バイセクシュアル・10 代・岐阜県）

身体の性別によって勝手に男性のグループに入れられることが辛かった。（MtX、性的指向は男性・20 代・大阪府）

先生たちの実践

クラスを二分する時は、性別ではなく、出席番号が偶数か奇数や、座席が窓側か廊下側か等で分けています。また、席順表の男女別表記をやめました。また、学用品の案内を男女別で行うことをやめました。（東京都・小学校）

アンケートで性別があるものは回答しなくていいことや、自分の思う性別を選びたかったら選んでいいよという声かけをしています。そもそも、この質問いらないよねということも伝えています。（三重県・中学校）

男女混合名簿にして、整列も混合名簿順にしています。（和歌山県・小学校）

男女問わず使えるデザインの学校用品を多く取り扱っている業者を選んでいます。（大阪府・小学校）

男子は青、女子はピンクという色分けは使わないようにしています。席替えの際に、男子席・女子席をつくらないようにしました。（大阪府・小学校）

市から全員に配布される黄色い帽子を、男子がキャップ型、女子がハット型と決めずに、好きな方を選べるようにしています。（埼玉県・小学校）

今日からできること

- ☑ 席順や整列・班わけ等を、性別以外でもわけるように工夫する。
- ☑ 男女混合名簿にする。名簿を男女で色わけしない。
- ☑ 日頃の配布物・掲示物等も、好きな色を選べるようにする。
- ☑ 性別で色等がわかれていない / もしくはたくさんの選択肢がある学校用品の販売業者を積極的に選ぶ。

©ReBit 2025 All Rights Reserved
©ReBit 2025 All Rights Reserved

3. LGBTQ/SOGIE も安心な学校環境と風土づくりのために

多様な性について理解を促進するとともに、LGBTQ/SOGIE インクルーシブな風土醸成を行うことは、安心安全な学校・学級づくりのために大切です。以下 6 つのステップで取り組んでみましょう。

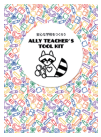
1）先生が学ぶ

LGBTQ について、まず先生が学ぶことが大切です。先生がひとりで学ぶことはもちろん、教職員研修等を通じ、全ての先生たちが学ぶ機会が定期的にあることが重要です。また、先生が LGBTQ について学んでいることを、児童生徒たちに伝えることも、相談しやすい環境づくりにつながります。

今日からできること

■ 教職員向け e ラーニング研修で学ぶ

このハンドブックが入ってる資材キット「Ally Teacher's Tool Kit：安心な学校をつくろう編」には、教職員向け e ラーニング動画、ワークシートや研修計画書等の資材が同封されています。先生が一人で学んだり、教職員研修で他の先生たちと学ぶために活用できます。



https://rebitlgbt.org/project/kyozai/teacher

■ 教職員向け情報サイトで学ぶ

「Ally Teacher's School」は、先生のための LGBTQ に関するオンライン情報センターです。対象や用途にあわせた教材検索や、先生たちの実践インタビュー、相談先一覧等さまざまな情報を得ることができます。

https://allyteachers.org

■ オンライン勉強会に参加する

このハンドブックを製作した認定 NPO 法人 ReBit は、教職員向けの無料・オンラインの勉強会や相談会を定期的に実施しています。開催時は団体サイトで告知します。

https://rebitlgbt.org

©ReBit 2025 All Rights Reserved
©ReBit 2025 All Rights Reserved

2）学校の取り組みを教職員間で検討・実施する

LGBTQ/SOGIE を包摂した学校づくりに向け、具体的な取り組みや相談対応について教職員間で検討し、計画を立てたうえで実践し、振り返りながら継続的に改善を重ねることが、より良い環境づくりにつながります。

今日からできること

■ 学校で取り組むアクションを決める

LGBTQ/SOGIE を包摂した学校づくりのためにどのような取り組みをするか、教職員間で話し合いをしましょう。学年や学校全体で取り組みを決め、学期ごとなど定期的に進捗を確認しましょう。取り組みを考える際に、本キットに含まれている「LGBTQ/SOGIE インクルーシブな学校・学級づくりアクションシート」を活用することができます。

■ 児童生徒からの相談や、いじめがあった場合の対応について事前に検討する

本キットに含まれている「LGBTQ/SOGIE に関する相談対応ハンドブック」を活用し、LGBTQ に関して児童生徒から相談があった場合や、LGBTQ に関する揶揄やいじめがあった場合の対応について、教職員間で事前に検討しましょう。

ハンドブックに含まれているケースを教職員で検討し、実際にこのような場面が学校で起こった際に、教職員対応チームには誰が入るのか、対応フローはどのようにするのか、教育委員会と連携する場合の窓口はどこか、他に連携できる外部資源があるか等を話し合ってください。

アクションシートとハンドブックは、以下から無料でダウンロードできます。

https://rebitlgbt.org/teacher/

また、本資材を制作している認定 NPO 法人 ReBit では、学校ごとの個別相談や伴走支援を実施しています（対応可能な学校数には上限があります）。

学校の取り組みに悩んだ際や、児童・生徒からの相談があった場合など、お気軽にお問い合わせください。

https://rebitlgbt.org/contact/

3）本や掲示物・配布物で情報を提供する

学級図書や図書室、保健室等に LGBTQ についての本を置いたり、校内で LGBTQ に関するポスターを掲示することで、日常的に子どもたちに情報提供ができます。また、自治体が LGBTQ の啓発リーフレット等を制作していることも多く、それらを配布することも有効です。ぜひ貴校の管轄の教育委員会や自治体等に問い合わせてみてください。なお、先生が本を置いたり、掲示物やシールを貼ることで、先生が LGBTQ のアライ（理解者）であることがわかり、相談しやすい環境づくりにもつながります。

今日からできること

■ ポスター / マグネット / ステッカーを貼る

このハンドブックが入っている資材キット「Ally Teacher's Tool Kit：安心な学校をつくろう編」のなかに、ポスターとステッカーが同封されています。

ステッカーはノートやファイルに貼ることで、先生がアライであることを示すことができます。

ポスターは掲示板、マグネットは黒板等に貼ることで、LGBTQ にとっても安心な学級・学校であることを伝えることができます。先生のアライとしての宣言や、相談できる場所の情報提供等、自由に記入ください。

例：・〇〇先生は、LGBTQ についてみんなといっしょに学び続けます。
・相談したい・話したいことがあるときは〇〇先生や、保健室、カウンセリング室で待っています。

■ 本を置く

LGBTQ に関する本を、対象年代ごとにまとめたブックリストがあります。図書室や学校図書におく本を選書する際に活用できます。「Ally Teacher's Tool Kit：小学校高学年で授業しよう編」からダウンロードください。
https://rebitlgbt.org/shougakko/

©ReBit 2025 All Rights Reserved

4）日々の授業やお便りで取り上げる

日々の授業の中で、多様な性について取り上げることができます。また、学級通信や保健便りなどで LGBTQ に関する話題を取り入れることも大切です。こうした継続的な情報発信を通じて、理解を深め、誰もが安心して過ごせる環境づくりにつなげることができます。

今日からできること

■ ホームルーム
- LGBTQ のニュースや、地域のイベント（プライドパレード等）を紹介する。
- LGBTQ の国際的な記念日を紹介する。

5 月 国際反ホモフォビア、バイフォビア＆トランスフォビアデー（17 日）
6 月 プライド月間
10 月 カミングアウトデー（11 日）、Spirit Day（第 3 木曜日）
11 月 トランスジェンダー追悼の日（20 日）
12 月 世界エイズデー（1 日）、人権週間（4 日～10 日）、人権デー（10 日）

■ 英語
- ジェンダーニュートラルな代名詞（they/ze/xe 等）について紹介する。
- 英語の曲を紹介する際、LGBTQ をテーマにした曲も紹介する。
- 英語の教材として、LGBTQ をテーマにした映像をみる。

例：NHK の「ファースト・デイ わたしはハナ」はトランスジェンダー女性の小学生が主人公のドラマです。学校では無料で使え、英語学習での実践授業や配布資料もオンラインで見られます。

■ 国語・家庭科
- 家族について取り扱うときに、「お父さん 2 人の家や、お母さん 2 人の家もあるよね」等、多様な家族があることを伝えたり、多様な家族が示されている教材をつかったりする。

■ 社会
- パートナーシップ条例や同性婚等、国内外での LGBTQ に関する取り組みを紹介する。

©ReBit 2025 All Rights Reserved

5）授業やホームルーム等で、多様な性について教える

道徳や保健体育、ホームルーム等で多様な性をテーマに授業をすることもできます。2024 年度からは小学校保健体育の全ての教科書に、2025 年度からは中学校道徳の全ての教科書に、LGBTQ や多様な性についての記載がされるため、単元に沿って実施することもできます。

また、行政や NPO 法人等が製作している動画教材やワークシート等を活用することもできます。

今日からできること

■ 自治体・教育委員会による指導案・実践事例集を活用する

LGBTQ に関する指導案や実践事例集等を制作している教育委員会も多くあります。貴校の管轄の教育委員会や自治体等に問い合わせてみましょう。

なお、一部の自治体の取り組みを以下の記事にまとめています。
https://allyteachers.org/?p=1487

■ 授業実践のための教材キットを活用する

Ally Teacher's Tool Kit には、先生が授業をすることを応援する「授業しよう編」もあります。小学校高学年向けと中学校向けの 2 種があり、いずれも、学習指導案、動画教材、ワークシートや配布資料等の 10 種を超える教材が含まれています。

以下サイトから、無料でダウンロードや郵送依頼ができます。

小学校高学年版：
https://rebitlgbt.org/project/kyozai/shougakko

中学校版：
https://rebitlgbt.org/project/kyozai/chugakko

©ReBit 2025 All Rights Reserved

6）児童生徒たちといっしょに風土をつくる

LGBTQ/SOGIEが包摂された学校・学級を実現するためには、先生や児童生徒が共にインクルーシブ（包摂的）な風土を築いていくことが大切です。日頃から、不要な性別わけをしない、異性愛を前提としない、多様な性や人権について日常的に話すなど、できることはたくさんあります。

今日からできること

■ 生徒同士や先生の声かけの中で、不要な性別わけがあったり、誰もが異性愛であることを前提とする発言があった場合は、「こういうわけ方もできるのでは？」と提案したり、「誰もが異性を好きになるわけではないよね」と補足する。

■ LGBTQ が笑いのネタになっている場面を見かけたら、見過ごさずに注意する。（『LGBTQ/SOGIE 相談対応ハンドブック』P28 参照）

■ クラスで「男子 / 女子」にわかれて遊ぶことを当たり前とせず、「男子だから女子と遊ぶのはおかしい」「女子だから男子と遊んではいけない」といった風潮にしない。

■ 特にバレンタインや修学旅行など、異性愛を前提とした会話が生じやすいタイミングでは、多様な性について取り上げる。

例：バレンタインデーの風習は国によって異なり、好きな人にプレゼントを渡す国もあれば、友人や家族に贈る国もあります。日本でも、好きな人に限らず、友達・家族・自分自身等に贈るものいいですし、誰にも贈らなくてもいいですよね。

■ 同性同士であっても、相手の体を許可なく見たり触ったりしてはいけないことを伝える。これは LGBTQ に限らず、すべての児童生徒にとって大切なことです。例えば、「女子同士でふざけて胸を触り合う流れになって、嫌だった」「男子同士でカンチョーをしあうことが流行って、辛かった」といった声もあります。どんな場面でも、相手の同意なくプライベートゾーンを見ない・触らないことが大切だと伝えることで、LGBTQ を含むすべての子どもたちの安心と人権を守ることにもつながります。

©ReBit 2025 All Rights Reserved